

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700375		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらん I		
所在地	福島県須賀川市東22番地の8		
自己評価作成日	平成21年6月25日	評価結果市町村受理日	平成21年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が自分の力を発揮し、喜びを感じ生き生きと生活が送れるように、利用者の昔馴染みの料理を作ってもらったり、裁縫などそれぞれが力を発揮できることを行ってもらっています。また、今までの利用者に対する固定観念にとらわれず、いつも「何ができるだろう?」と考えながらケアに当たっていきたく思います。御家族、職員が信頼関係深めていけるように行事や面会時を利用して話をしています。そして御家族と一緒に利用者の生活について考えていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接して同法人が運営する訪問介護、通所介護等と市営の児童館・保育園があり、近くには桜ヶ丘団地もあり地域密着型サービスを提供する環境は充分である。玄関や勝手口の戸は開放的で、利用者は自由に外出できるが、今まで問題となる様な事はなかった。近隣との交流もよくされており、児童館・保育園の子供達だけでなく、利用者の友達の訪問も多い。開設後7年になり利用者家族への事業所からの情報提供も利用者の表情や様子・事業所行事等を写真・イラストを使い工夫が凝らされている。職員も外部・内部研修に出席し資質の向上に努めている。法人では、今年からは職員の勤続年数に合わせた研修も準備している。事業所としてリフレッシュ休暇制度を新設、資格取得をするための勤務調整をするなど職員の福利厚生に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めにケアワーカー会議を開き理念を作成した。そして作成した理念の共有のために事務所に理念を掲げている。	今年当初に地域密着型サービス提供事業所の役割を反映した理念に変更し、ユニット毎に掲示するとともに職員の意識高揚に努めている。また職員にも理念が周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花植えやカラオケ大会など町内会の行事に参加している。また、事業所の夏祭りには、近所の方や町内会の方々、隣の保育所の園児などにきていただいている。1か月に1回近所の方が大正琴のボランティアに来てくれている	町内会や老人会(ポタン会)には、利用者が職員と一緒に出席している。今年の事業所主催の夏祭り(9月27日)には出店を出す事となった。一人ひとりの希望にあわせた利用者の役割分担が利用者も参加した準備会で決定した。児童館・幼稚園には招待状を出し、積極的に交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時にホーム内での利用者の活動の様子を見てもらっている。また、見学に自由に来ていただいたり、相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催している。参加者が分かりやすく、内容をイメージしやすいように、パワーポイントや写真を用いている。また、参加者が意見を言いやすくなるように心がけている。意見は聞き逃さずサービス向上に活かしていきたい	2ヶ月に1回開催されており、事業所の事業(パワーポイントを使用しわかりやすく)報告をし、委員からも意見がだされている。出された意見を基に、利用者が老人会へ参加するようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人職員が「認知症キャラバンメイト」になっており、定期的に行われる会議に参加し、担当者や家族の会の方など多方面の職員と関わりを持つ機会がある	ここの葉ネットワークの立ち上げを市に働きかけて行った。2か月に1回の割りで「ここの葉ネット」を共催しており、職員も勤務者以外は参加することが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員はまだまだ理解が不十分ではあるが理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修には一人以上出席するようにし、研修報告も全職員に行われている。内部研修も勤続年数ごとの研修とし理解度にあつた研修がおこなわれている。玄関や勝手口の戸は開け放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。管理者、計画作成担当者は県主催の身体拘束廃止推進セミナーなどには積極的に参加している。職員も理解はされているがまだまだ理解が不十分なので今後も学ぶ機会を設けていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修などで権利擁護について学ぶ機会を設けているが十分に理解されているとはいえないので、今後も定期的に研修の機会を設け、活用できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込や契約の際に、当事業所について説明をしている。また、入居される前に家族の方に見学に来ていただいたり、ご本人さんに遊びに来ていただき、出来るだけ不安が少なくなるように努めている。改定の際は説明を十分行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	世話になっているからと遠慮し、なかなか意見を出してくれない方が多いので、面会時や行事参加時に話をするようにしている。また、運営推進会議に参加している家族の方には会議の中で話をいただいている	運営推進会議や行事等の際に家族の意見を聞き取っている。今年度より家族会は自主運営とし、出来るだけ職員がかかわらないようにした。年一回の総会を予定しており、家族会の意見や要望把握が期待できる体制となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者会議やリーダー会議、内部研修を行い、意見交換を行っている。又、親睦会などで、職場環境についての意見交換を行っている。	職員の意向を踏まえ、全職員がリフレッシュ休暇(連続6日)を取るようになり、職員の福利厚生にも積極的に取り組んでいる。定期的な会議や親睦会等で職員の意見を聞き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種加算による収入増を給与に反映させるよう努めている。資格取得へ向けての勉強会など向上心が持てるように配慮している。また、リフレッシュ休暇を設け、連続6日間以上休めるようにし、職員のリフレッシュをはかっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、基礎研修や、経験年数に合わせたレベルアップ研修を計画的に行い、法人外でも職員のレベルに合わせて様々な研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の役員として県内外の事業者との交流があり、多くの研修機会を設けている。他事業所と交換研修を行ったり、研修やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人にお会いし不安なことや要望など情報の収集に努めている。また、職員のことでも知ってもらい少しでも顔見知りになれるよう話をする。利用時は他の利用者全員でお迎えしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望などについて話を聞く機会を設けている。利用者との関係作りと同様に家族とも関係が作れるように話をしたり、不安なことがあればいつでも連絡をくれるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報をもとにその時必要な支援の見極めを職員全員で行っている。他のサービス利用が妥当だと判断された場合にはスムーズに利用ができるよう他サービスと連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場と考えず、共に暮らす家族と考えている。一緒に生活する中で調理など職員が本人から学ぶことは多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会しやすい環境作りを行ったり、行事や面会時の家族の方とのコミュニケーション作りに努めている。家族の望みを理解し、共に本人を支えていく関係をより一層深めていけるように支援していきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ本人が入居前に利用していた美容室に出かけたりしている。また、友人や知人の方が面会に来てくださったり、一緒に外出する機会もある。これまで大切にしてきた馴染みのものとの関係が途切れることのないように支援していきたい。	利用者は馴染みの美容室に出かけたり、利用者の友人の訪問により写真好きの利用者が、写真撮影・写真展に友人と一緒に出かけしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支えあい生活していくことの大切さを職員は理解し、職員は利用者の中に入り、関係を深めていくようなコミュニケーションに努めている。それぞれができることを行い助け合って生活しているので手を貸しすぎず支えていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族との日々は職員にとっても忘れることのできない思い出となっているので、迷惑にならないように配慮しながら家族との関係を継続して行きたい。必要があれば相談に対応し支援していきたい。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の声に耳を傾け、それぞれの思いを聞き逃さないように努めている。また、居心地の良い、安心できる場となるように、本人の希望に添ったケアプランを立てるためにカンファレンスを行い職員同士で話し合いを行っている	普段から利用者一人ひとりの話に耳を傾け、会話の中からキーワードを記録し、職員間で情報を共有している。毎朝申し送り後カンファレンスを行い情報共有と同時に、利用者の意向を反映した介護計画の作成に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話から情報を収集したり、面会にきた家族や友人の方などから収集している。しかし、まだまだ把握していないことも多いので、今後も情報の収集に努め、職員全員で共有を図っていききたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式などを活用し、一人ひとりの心身の状況を把握し、それぞれに合ったケアに努めている。また、出来る力(残っている力)を維持できるようにカンファレンスを行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、他の職員の意見なども取り入れて介護計画を作成している。また、その際家族の意見を取り入れるようにしている。本人の視点で考えることを忘れず、本人の変化に応じて見直しを定期的、随時行っていきたい	利用者と家族の意向を把握し、一人ひとりの身体状況に合わせ、カンファレンスで検討しながら介護計画を作成している。状態変化に応じて見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を個別記録に記入している。職員は必ず記録に目を通すようにしており、情報を共有し、ケアが途切れてしまうことのないように努めている。また、毎日の記録を見直し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに応じてケアプランの見直しを行っている。利用者や家族にとってより良い生活が送れるように考えていきたい。法人の中にデイサービスなどがあるので連携して関わっていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際に近所の方や保育所の園児に声をかけてもらったりしている。利用者が力を発揮し、安全に生活が送れるように地域資源の把握に努め、地域との関係作りを行っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた病院を優先している。しかし緊急時に往診してもらえない病院の場合には家族と相談し、適切な診療が受けられるようにしている。また、受診に家族が付き添えない場合には職員が代わって付き添いしている。	入所前のかかりつけ医への通院介助は家族付き添いが原則であるが、家族と協議の上、協力医療機関に変更したり、家族付き添いが出来ない利用者には、職員が付き添うことにしている。点滴が必要な利用者があり、協力医の往診があるが、その際他の利用者の状態も診てくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に看護師の健康チェックを行っており、チェックの中で気になることなどがあれば報告し見てもらい支持を受け、必要に応じて受診や往診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は顔なじみの職員が交代で面会に行き、出来るだけ不安を和らげるように努めている。また、早期に退院ができるように病院関係者と情報交換をこまめに行ったり、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族と話し合いを行い、事業所としてできること出来ないことを説明し、本人と家族の望む生活が送れるように努めている。協力病院が夜間や休日でも対応してくれ、往診していただく。今後も利用者の状況の変化に応じて随時話し合いを行い状況に応じたケアを行っていききたい	事業所として重度化・看取りに関する指針を作成している。終末期の利用者には家族と話し合いを繰り返し、終末期の生活支援に関する覚書を取り交わしている。関係者(医師、看護師、家族、法人役員、職員等)がチームとなり支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行ってはいるが定期的ではないので、定期的に訓練を行い職員の知識や実践力の向上に努めていききたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて今年度は2か月に1回の訓練を予定している。全職員が避難の方法を身につけることができるように行っていききたい。また、法人職員が近隣に住んでいるので災害時は駆けつけてくれる	7月18日に避難訓練を実施。避難完了まで8分であったとのこと。今年より2ヶ月に1回実施していく計画となっており、各種災害に備えての訓練が期待できる。しかし、職員が災害時に不安を感じており、地域の協力体制も十分とは言えない。	訓練実施の回数と時間帯(夜間)、地域(消防団等)の協力・実際に発煙筒を焚いた場合の利用者の反応等を配慮し、避難訓練を工夫されたい。地震対策としての利用者居室の家具等の固定化についても検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう努め、一人ひとりにあった言葉かけを行っている。親しき仲にも礼儀ありということを忘れず、馴染みの関係を大切にしている。これからもプライバシーの確保に努めていきたい。	外部研修として人権擁護の研修を受講している。言葉掛けも丁寧すぎず、ぞんざいでなく利用者也職員に気楽に話しかけており、職員との信頼関係は良好だと思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などを表わせるような言葉かけや環境作り、一人ひとりの能力に合わせた言葉かけを行い、出来るだけ自己決定ができるよう支援しているが状況によって職員が決めてしまっていることがあるので本人に決めてもらう場面を増やしていきたい		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者と過ごす時間や個別に過ごす時間を大切にしている。一人ひとりのペースを大切に支援しているが、状況によって職員のペースに合わせてしまっていることがあるので、思いに沿った生活を送れるように考えて支援していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の行きつけの美容室に出かけたり、洋服を本人を選んでもらっている。認知症の進行などにより以前のように自分で行えなくなってきた方にもおしゃれでいてもらえるように、必要に応じて職員が手を貸している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	切り方、味付け、盛り付けなど一人ひとりの出来る場面に応じて調理を一緒に行っている。また、楽しく食事をとることができるように雰囲気作りに努めている。	9日分のメニューを職員が利用者の嗜好を考慮しながら作製し、食事担当職員が栄養バランスを検討し決めており、メニューを見ながら利用者と一緒に買い出しに毎日出かける。利用者も一緒に食事作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量に合わせてご飯を盛りつけている。また、食事量は個別記録に記録している。活動の後や入浴後などこまめに水分を取ってもらうように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員ができるように言葉かけを行い、職員も一緒に行っている。また、1か月に1回歯科の先生が口腔内のチェックに来てくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後など、その方に合わせて声かけや誘導を行い、パターンを知るように努力している。また、出来ない部分のみを介助し、出来るところは本人に行ってもらえるように支援している。	定時トイレ誘導はしていない。日中紙オムツ使用する人や夜間ポータブル使用者もいない。利用者の様子や表情をみて声かけをし支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響について理解し、便秘にならないようにこまめな水分摂取や食物繊維の摂取、野菜でとりずらい方には野菜ジュースなど工夫し飲んでもらっている。また、散歩などの適度な運動にも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ一人ひとりの希望やタイミングで入浴していただいている。しかし介助の必要な方の入浴の場合職員の都合になってしまっていることがある。	毎日入浴は可能である。午前中の中の入浴希望者はいない。就寝前に入浴がほとんどで、21時まで入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者へは対応を工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息をとってもらったり、状況に応じて(疲れた表情や眠気が見受けられるような場合)声かけ、居室などに誘導し、休んでもらっている。また、日中出来るだけ体を動かしてもらい、夜ぐっすり休めるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をいつでも確認できるようにファイルしてある。変更があった際は必ず職員全員に確認してもらうようにしている。誤薬などがないように準備し、職員が名前を確認して手渡し服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割など、その人に応じた役割や、気分転換を行っている。台所仕事や掃除、大工仕事など行ってもらっている。また、外出やドライブと外へ出かける機会も多くもつようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩、他にも本人の希望に応じて出かけたがり、ご家族の協力のもとに自宅や地元へ出かけたがりしている。今後も御家族や地域の方々の協力を得ながら本人の希望に沿った外出の支援が行えるようにしていきたい。	買い物・散歩・(利用者の状態に合わせた)少人数の旅行(2~3人)・外部友人との写真展見学・職員付き添いでの実家(空き家になっている)帰り等利用者の意向を取り入れた外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを理解し、自分で管理ができる、管理したいという方には自分で管理してもらい必要に応じて支援を行っている。また職員がお金を預かっている方でも、支払の際財布を持ってもらったり支払をいっしょに行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したいと思う時に自由に電話できるように支援している。知人の方々と手紙のやり取りをしている方もいる。また、1か月日記を利用し、家族と連絡を取ったり、本人に家族に向けて一言書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所が分かりづらいところには張り紙や暖簾をとりつけている。また、リビングや玄関には利用者の方に花を生けてもらい飾っている。できるだけ本人の残っている力をいかし、安全に、生活してもらえるように浴室への手すりやシャワーベンチなどの設置を検討している。	共用空間においても1人になれる場所を作るため、畳コーナーを間じ切りできるようにしたり、廊下にベンチを置いたりしている。廊下・共用空間には、利用者が生けた花(季節に合わせた)・写真・カレンダーが飾られており、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の畳コーナーや玄関先のベンチで利用者同士で話をしたりしていることがある。今後も共用空間の環境の整備に努めていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使用していた家具などを持ってきていただいております、それぞれの方々の居室空間ができています。利用者の方によっては休息のための場所になっているので落ち着いて休むことができるように環境を御家族とも相談し整えている。居室に他の利用者の方を招いて話をしたり、職員がお邪魔して話をしたりしている。本人が安心して過ごせる居心地の良い空間になるようにこれからも考えていきたい。	各居室とも花が生けられたり、家族の写真が飾られている。仏壇・タンスを持ち込んでいる利用者もおり、利用者が居心地良く安心して過ごせる環境となっている。入り口に暖簾をかけ開け放しの居室もあり利用者の思いを大切に、支援していることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に、出来る力を生かして生活できるように職員で考えている。利用者の状況の変化に合わせた環境の改善にはなっていないので、変化に応じた環境の改善を行っていきたい。		

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム すずらん

記入担当者名 菅野 道代

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。